

TOKIWA

2023

SPRING

vol.211

INTERVIEW

あなたの未来を、この職場の未来を、利用者様の未来を考えていますか



あなたの未来を、この職場の未来を、利用者様の未来を考えていますか

今号では、公益財団法人 介護労働安定センター千葉支部の支部長 倉田まゆみ様にインタビューしました。

一 倉田様は、どのようなきっかけで今のお仕事をするようになったのでしょうか？

介護労働安定センターを知ったのは平成25年。当時、私は公務員で福祉人材確保に関わる仕事をしており、介護事業所への訪問や、介護の魅力を伝えるためのセミナーを企画していました。3年前、私がそのような仕事をしてきたことをご存じの方から、この仕事をやってみないかとお声掛けいただいたのがきっかけでした。既に数年経過しており不安もありましたが、当時思っていたことを「今」に置き換えて、できることがあるかもしれないと着任しました。実際、思った通りにはいきませんが(笑)。

一 どのような苦勞がこれまでありましたか？

まず、千葉県の各地域を知るのが大変でした。机に白地図を置き「チーバ君」の体で地域を覚えました。私は千葉県に住んでいるものの、知っているのはチーバ君の顎あたりだけ。千葉は広く、自動車が無いと大変!ということも実感しました。車は嫌いではないですが、普段乗らないので運転にも苦勞しています。

一 どのような時にこの仕事をしていてよかったと思われますか？

事業所の皆様のお役に立ったと感じられる時でしょうか。例えば、実施したセミナーや相談について「良かった」など高評価をいただいたとき。また、当センターでは「介護労働講習(実務者研修を含む)」を年に1回実施していますが、受講生が「就職しました。」と報告してくれたときも、良かった…と思います。

一 介護業界に向けてよいアドバイスをいただければと思います。

生産年齢人口は減る、高齢者割合は増加する。ご承知のとおり超高齢化社会は当分続きます。人材確保はますます厳しくなるなかで、介護はやはり人に頼るところが大きく、人材確保は必須です。とはいえ、人を集めることが難しくなるわけですから、今後は少ない人数でいかに上質なサービスができるかを考えていかなければなりません。処遇改善、生産性向上、効率化、ICT化…と様々な対策が言われていますね。管理者の方はその未来について考えていると思いますが、働いている方はどうでしょうか。(実は現場の方と直接お話をする機会が少ないため、もしかすると私の思い込みかもしれません。)日々の業務に追われて、未来を考えることができているでしょうか。「あなたの未来を、この施設の未来を、利用者様の未来を考えていますか。」これが事業主と職員に共有されていることが重要だと思います。そのうえで対策を講じると、何をするにも上手くいくのではないかと私は考えています。

一 ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

施設にお伺いしたときに、最初に自然に囲まれた環境の良さを感じました。また、職員の方からは情熱的で積極

的な行動力とともに、優しく穏やかな印象を感じました。組織としての環境がよいからだろうと思いますね。自然豊かな環境と人の心、これがときわ園の魅力ではないでしょうか。利用者様に直接お話を伺っておりませんが(この3年コロナ禍でそれは叶わず)私が利用者だったら気持ちよく過ごせるだろうと、そんな感想を持ちました。



介護労働安定センター 千葉支部 支部長 倉田まゆみ様

一 ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

IT化にも早くから取り組まれ、委員会など内部活動も活発。外国人スタッフも楽しく仲良く働いておられる。挙げればもっとありますが、本当に業界を牽引する力がある施設だと思います。利用者様とご家族様、管理者の方を含むスタッフの皆様、そして地域の皆様とが満足して笑顔でいられる場所ですね。「今のときわ園」を大切に、未来に向かってますます前進・進化していかれることを期待しています。ありがとうございました。

倉田様、この度はインタビューに応じてくださいありがとうございました。



賛助会員交流会



介護労働講習

40周年を迎えて

特別養護老人ホームときわ園(本館)が開園してから今年で40周年を迎えます。開園日は東京ディズニーランド開園6日前の1983年(昭和58年)4月9日ですので覚えやすいですね。

ときわ園が40年間大きな事故やトラブルもなく歩んで来られたのはひとえに、ご利用者、ご家族、地域の皆様、ボランティア、行政関係者、職員など多くの方々のご支援の賜物と、心から感謝いたします。

40年の間に世の中は大きく変わりました。科学技術や医療技術は目を見張る進歩を遂げてきました。特に最近世の中の有様の変化が速く、次から次へと場面が変わっていく舞台のように感じます。世の中は便利になってきましたが、同時に物事が複雑化し、情報があふれ、ストレスが増えているように感じている方も多いのでは

ないでしょうか。

高齢者福祉や介護に関する状況も変化しました。40年前はまだ千葉市内に特別養護老人ホームが4施設しかありませんでしたが、今では50を超えています。千葉市の65歳以上の高齢者人口は昭和60年の統計では37,437人で、千葉市の総人口に占める割合は6.0%でした。しかし令和2年の統計では249,963人、25.6%にまで増加しています。団塊世代全員が75歳以上になる2025年まであと2年になり、これから益々高齢化が進んでいきます。

私たち介護に携わる者は「白髪の人の前では立ち上がりなさい。年長者を敬いなさい」と教え

られてきました。高齢者の皆さんは激動の時代の中で社会を支えてこられました。ストレスの多い時代ですが、私たちは高齢者を敬う心、尊敬する気持ちを抱きつつ人生の最後のステージを安心して、楽しくゆっくりと過ごしていただくお手伝いができましたらこの上ない幸いです。

これから先5年、10年…と環境の変化に適應しながら、皆様から愛され安心してご利用いただける施設として更なる向上を図って参りたいと思います。



ご利用者からも太鼓判のこもれびのお食事!

みなさんこんにちは! デイサービスセンターこもれびの西山です。今回はご利用者が日々楽しみにされているお食事についてご紹介します。管理栄養士が中心となり、栄養バランスを重視した献立が用意されているのですが、味付けのバリエーションが豊富で、私自身も夕食作りの参考にさせていただいております。また、日本各地の伝



鬼に見立てたデザート

統料理や、時には異国の新しい味など様々なメニューが考えられており、懐かしさや新しい味でお食事を楽しんでいただけます。そして季節を感じられるメニューにも工夫されており、1月にはお膳に盛られたお節料理や、体の温まる甘酒、お麩をお餅に見立てたお汁粉などで年初めを感じいただき、2月には鬼に見立てた可愛いデザートに「可愛くて食べるのがもったいない」と、お喜びの声が聞かれました。毎日のお食事の時間は、季節の移ろいを感じていただきながら、お料理の思い出話や、「今この野菜が旬だよ」「これは隠し味に〜を入れるといいのよ〜」

など、皆さんのお話を伺いながら一緒に楽しめる有意義な時間だと感じています。食事をするこの楽しさを感じていただけるデイサービスこもれびへぜひお越しください。



お節料理を召し上がるご利用者

理事長 三枝 弘朋



デイサービスセンターこもれび 介護職員 西山 明日香



デイサービスの活動

季節ごとの工作をはじめとしたイベントを随時開催しており、各々の作品の作成や共同での作成等を楽しませております。

食後にはパズルやレクに集中して取り組み、春先には花壇の花々や園芸・外気浴を楽しむことができる環境を整備しております。

機能訓練室では専門の指導員のもとで訓練に集中していただけます。

皆様のお越しを心よりお待ちしております！



花摘みを楽しんで



外気浴を楽しむ



お重料理に舌鼓



おやつのだら焼きにニコリ



花壇の花々を楽しみ♪



野菜の育ち具合を観察…



澄み切った空のもとで…



大きな樹の下で一服



協力してパズルに集中…



工作レク風景



食前のワハハ体操！



年始のご挨拶



年の初めの福笑い！



カードゲームで盛り上がり…



新記録達成！



日本地図パズルに集中！



ストライクを狙って…



高得点を狙って！



リハビリの待ち時間に自主訓練を！



上肢筋力増強訓練！



下肢筋力増強の為にパワーリハビリ



自作のひな人形と記念に…



貼り絵を皆さんで



完成品を眺めて…

公開講座を終えて「認知症という病気を知る」 ～医学的視点で認知症ケアを考える～

医務部門
認知症看護認定看護師
大野 敦史



令和5年1月19日(木)に千葉文化センターにおいて介護労働安定センター主催の公開講座「認知症という病気を知る」を行いました。今回の講義は認知症ケア専門士になるための単位も含まれるため、介護施設職員はもちろん、看護師や一般の方などの参加も見られました。

講義中は静かな様子でしたが、終了後は個人的に質問されてくる方やスライドを写真に撮らせてほしいなどの要望も多数ありました。講義中の様子に比べ関心を持っている参加者

が多いことがうかがえました。講義の中でも認知症者の気持ちを考えることや、その気持ちに対してどのようにケアを取り入れていくかということにとっても関心があった様子です。また、休憩中はときわ園での介護の



講演の様子

様子や働きやすさについて聞かれる方もみられました。

これからも今ある知識を介護する人達に少しでも役立ててもらい、認知症介護がより良いものになるように頑張りたいと思います。



講義中の大野看護師

ときわ園のお正月料理

管理栄養士
谷口 亜弥



ときわ園では新年に甘酒を振る舞う恒例のイベントがあります。今年は1月4日、5日と2日に分け三枝理事長、酒井施設長から、ご利用者に直接甘酒を手渡され、新年のご挨拶と会話を楽しまれていました。おかわりのリクエストも多くあり、にぎやかなうちに終了しております。

元日の朝食と1月4日の昼食はご利用者に無理なく食べていただけるお正月料理をお重に入れて提供しました。彩もきれいでしたが、「おいしい！」と味にも満足され、普段はお食

事を残される方も完食です。おやつには餅入りぜんざい。餅はご飯と山芋を使用し、さっくりと切れるお餅もどきを作りました。雰囲気だけでも味わっていただきたいと給食業務全般をお任せしているエムサービス株式会社の発案です。「お餅を食べたのは何年振りだろうか」と皆様満足していただけただけの様子でしたが、「次回は？」と次の行事食に話題が移ります。ご利用者がお食事に関心を持ち続けていただけるようなお食事を今後も提供して行きたいと思っております。



元日メニュー



理事長からの甘酒のご提供

感染症との共存

～ときわ園での感染に対する取り組み～

初めましてこんにちは。ときわ園医務部門看護師の浅川明穂です。私は、昨年度よりときわ園に入職し、現在感染症対策委員会の一員として活動させていただいています。今回は私たちときわ園での感染症対策について、新型コロナウイルス感染症の拡大以降の取り組みについてお話させていただきます。

2019年の暮れ、私たちの生活を一変させる新型コロナウイルス感染症が流行し始めました。当時、私は看護の専門学校2年生でした。実習が延期や中止になる中で、いつ元の生活に戻るのだろうと不安を抱えていました。しかし、1年経っても感染は広がり続け、毎日感染におびえ緊張した生活を送っていたことを今でも鮮明に覚えています。皆様も緊急事態宣言が発動され、自由に外出もできない生活が続いたことや幾度も出される緊急事態宣言に落胆されたのではないのでしょうか。以前から、インフルエンザウイルスやノロウイルス等の、学校や施設等で感染の広がりや

すい感染症は存在していましたが、それらとは違った脅威を感じました。

ときわ園でも、今日に至るまで2度のクラスターを経験しております。初めて新型コロナウイルス陽性が判明した際には、既に職員への感染も広がっており次々に陽性者が出ました。感染が広がった本館の多床室では陽性者と陰性者が混在しており、感染を広げない様に看護、介護をすることは極めて難しいことでした。また、ウイルスというのは目に見えません。私たち介護者が気づかぬうちに広めてしまっているということもあったかもしれません。2度目のクラスターの際は、1度目の経験をもとに陽性が判明する前より対策を講じておりました。しかし、感染を止めることは難しい状態でした。

日常生活を送る中で感染症はどこに潜み、いつどこで感染するかわかりません。そこで2度のクラスターを経験した私たちは、感染症対策委員会を中心にときわ園内で感染を広げない活動に取り組むこととしました。手

洗い、消毒の正しい方法、正しい防護服の着脱方法、ゴミの片づけ方等を説明した動画を撮影し、講義形式の講習を実施。その後、実際に注意点を確認しながらの実践研修を行いました(写真参照)。講義を受けた後も、実際に正しくできないこともあり何度もやり直しながらの実践となりました。実際の感染症対応中ですと、その場の緊張感や焦りにより落ちついた行動がとれなくなってしまう。ときわ園では、原因不明の発熱時には感染症対策を行っていますので、実践を思い出しながら互いに確認し合い正しい感染症対策を身に着けている途中です。また、これらの対策は、新型コロナウイルス感染症以外の感染症対策にも有効と考えております。

感染症と私たちの関係を断つことはできません。そのため、今後もご利用者が安心して生活できる取り組み、ご家族様が安心してときわ園にお任せしていただける感染症対策を継続していきたいと考えております。

医務部門看護師
浅川 明穂



更なる環境改善に向けて

～新館空調更新工事～

本年2月20日をもって、およそ2か月に渡り行われていた新館の空調改修工事が完了いたしました。

使用されていた空調機器は竣工当初の設備で、19年目を迎えておりました。この20年間で空調機器の在り方・考え方も大きく変わり、以前は、「エコアイス」システムと言って、夜間の比較的安価な電力を使って氷やお湯を作り昼間の冷暖房に活用するという方法が流行していました。しかし、原発の停止、近年の電気代高騰、温暖化が進むことによる夜間の温度上昇など、時代が進むにつれ対応できない課題も多くなってきました。今回導入した空調設備は「高効率空調」と呼ば

れ、小さな電力でも大きなエネルギーを生み出すことができる機器となっており、今後の省エネ化、電気代節約に大きく貢献することが期待されます。

ときわ園も本館が今年で40年、新館が来年で20年を迎えます。設備メンテナンスに一層力を入れて取り組んでいきたいと思っております。

業務サポート部門
酒井 潤



新しくなった空調の室外機。大きさも半分に!

新型ロケット打ち上げ失敗から 得られる教訓

施設長
酒井 章年



3月7日(火) JAXAの新型基幹ロケットH3が打ち上がりました。2月の打ち上げ延期の要因となっていた補助ロケットも快調に動作し、1段目ロケットの切り離しまで順調に飛行していました。しかし、その後まさかのことが……。2段目ロケットが点火しなかったのです。破壊指令が出され打ち上げは失敗。関係者の落胆はいかばかりかと思えます。

当日、私は仕事がたまたま休みでしたので、打ち上げの様態と記者会見の様子を一部始終視聴しました。JAXAの岡田プロジェクトマネージャーは「呆然」としたと率直な感想を述べられ、さすがに落胆の色は隠せなかった様子でした。一方、記者に対する受け

答えから、今後原因究明に全力を注ぎ何としてでも次回の打ち上げを成功させるのだという強い意気込みを感じ取ることもできました。私自身も大変力づけられました。

ときわ園でも、どんなに注意深く仕事していても様々な失敗は付きも

のです。失敗=悪というイメージはよくありますが、私は必ずしもそうは考えません。むしろ、失敗を恐れず、それを糧として次に活かすことが何よりも大切です。そうすることでさらなる良質なサービスに繋げていくことができるのです。



ロケット打ち上げシーン

手指消毒の方法



防護服の身に着け方



ごみの捨て方



活動ログ

1/26

消防署の皆さんへ感謝

特別養護老人ホームときわ園では、この冬の寒さのため消防設備の誤作動による発報が発生しました。そのため、多くの消防車が出動しときわ園に駆けつけてくれました。ヘリコプターまで出動したのです。誤作動の原因を特定し対策を立てました。

一方、何かあっても消防隊がすぐに駆け付

けてくれるということが分かり、すごく安心したと述べるご利用者もおられました。確かに、消防隊はときわ園を守ってくれているということを実感し、感謝の気持ちが強まりました。

後日、理事長と施設長は緑消防署と越智消防署にご挨拶に伺いました。消防隊の皆様、本当にありがとうございました！



駆けつけた消防隊

1/27

ときわ園にも雪がつもりました！

1/27(金)の夜中から、ときわ園周辺でも雪が降りました。数時間でやみましたが、1/28(土)の朝、早めに出勤すると、朝日に照らされた雪景色を見ることができました。

ときわ園は千葉県のちょうど中心に位置し、標高も高く、千葉市街では雨でもときわ園では雪が降っているということがよくあります。

翌日は幸いそれほどの雪ではありません

でしたが、ときわ園の敷地内は、まるで雪国かのような気分を味わうことができました。

写真を撮る立場からすれば嬉しいのですが、福祉施設で働く立場からすれば、できれば雪が降らないことを願います。



ときわ園の看板に積もった雪



うっすらと敷地に積もった雪

2/9

保健指導が実施されました

保健指導とは、健康管理の専門家である保健師・管理栄養士が、生活習慣病のリスクのある方へ、現在の生活習慣などの健康情報をヒアリングし、一緒に生活習慣改善の目標を考え、その取り組みを続けられるようにサポートを行う制度です。特別養護老人ホームときわ園にも、先日保健師が来園し、希望する職員へ、相談・支

援を行っていただくことができました。

「指導」としても、内容はとても親切丁寧で分かりやすく、身近なところからできる目標を立てることや、改善できる習慣についてアドバイスをいただくことができました。病気を予防するための動機付けも得られました。

健康を維持していくためにこうした制度を活用し、いつまでも元気に働くことがで

きるよう、引き続き事業所としても職員の健康に関心を払っていきたいと思います。



保健指導を受ける職員

2/14

特別養護老人ホームにおける水虫の実態はいかに？

特別養護老人ホームときわ園では、昨年、千葉大学看護学部の学生さんの卒業研究に協力させていただき、このほどその研究論文がまとまりました。

卒業研究のテーマは、「特別養護老人ホームにおける足白癬および爪白癬の罹患状況とケアについての実態調査」

というものです。白癬つまり水虫というものと何かと軽視されがちかもしれませんが、この調査結果は、高齢者にとってはQOLの低下につながりかねない極めて重大な感染症であると指摘しています。一方では、特別養護老人ホームでの白癬に対する対応策は概して十分とは言えな

いところもあるということが分かりました。大変参考になる研究でした！



論文

編集後記

春がやってきました。寒い冬が終わりほっと一息。ときわ園の桜もきれいに咲きました。すてきな春を楽しみましょう。ただ、油断は禁物。新型コロナウイルス感染症の危険は引き続き存在しています。ときわ園では、これまで通り感染症対策に万全を期して取り組んでまいります。クラスターが生じないよう全力を尽くしていく決意であります。

社会福祉法人常盤会

〒266-0004 千葉県千葉市緑区平川町1731

TEL 043-291-2788 FAX 043-291-2799

<https://www.tokiwa-en.or.jp>

